

2016年（平成28年） 9月9日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

8/25～8/31のNYMEX・WTIIは、44.70～47.64ドルの範囲で、軟化気味に推移した。

9月1日は、前日のEIAの予想を上回る原油在庫増加の報告を受け、供給過剰懸念が強まり、一段と売り込まれ、大幅続落した。8月の米国製造業業況指数が予想を下回ったことも、圧迫材料となった。10月限は前日比1.54ドル安の43.16ドルで終了した。

週末2日は、3連休を前に、ロシアのプーチン大統領の産油国協調への期待感表明の報道をきっかけとして、買い戻しの動きが広まり、反騰した。ハリケーンの影響によるメキシコ湾岸周辺の産油量減少報道も買いを後押ししたが、米国内稼働石油掘削リグ数の増加情報がやや重しとなった。10月限は、前日比1.28高の44.44ドルとなった。

連休明け6日は、サウジのファリハ・エネルギー相とロシアのノバク・エネルギー相が市況監視の作業部会設置で合意したとの報道で一時急伸したものの、増産凍結に向けての具体的な言及はなかったことから、協調への期待は後退した。ただ、午後には、WTIIの受け渡し点であるクッシングの原油在庫が前週比70万バレル減少したとの報から、買い戻しが入った。10月限の終値は前日比0.39ドル高の44.83ドルとなった。

7日は、産油国協調による供給過剰解消への期待感から、3営業日連続で値上がりした。10月限の終値は前日比0.67ドル高の45.50ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、前週45.10～46.10ドルの範囲で、小刻みに推移した。1日は43.90ドル、2日は42.20ドル、5日は43.30ドル、6

日は44.30ドル、7日は43.80ドルとやや値下がり気味に推移した。

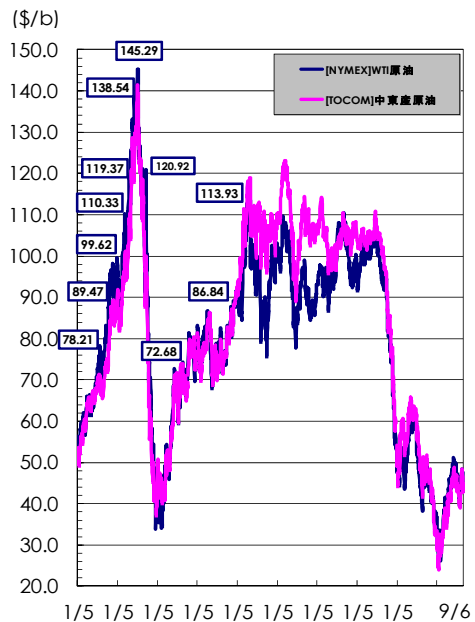
為替は、前週100.50～103.18円の範囲で、円安方向に推移した。1日は103.18円、2日は103.31円、5日は103.93円、6日は103.60円、7日は101.37円で推移した。

財務省が8日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比2,268円安の28,902円/kl。ドル建てでは44.73ドルで前旬比2.14ドル安。為替レートは1ドル/102.72円。

主要元売会社の9月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、全社据え置きだった。原油は値下がりし、為替のやや円安でやや相殺されたものの、原油コストはやや値下がりした。

そのような中で、9月5日時点の小売価格は、ガソリンが0.7円値上がりの122.9円、軽油は0.3円値上がりの102.5円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週連続の横ばいだった。この週(9月第1週)の原油コストはやや値下がりだったが、元売の卸価格は据え置きと1.0円の値上げに分かれた。

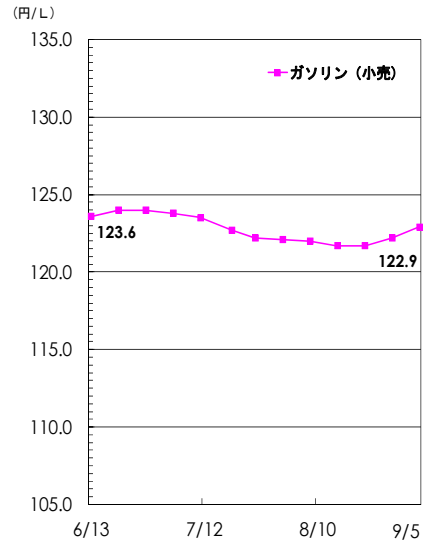
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/28 ~ 9/3	3,729 ▼ -19	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.8 ▼ -0.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/3	14,603 ▼ -26	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/5	43.62 ▼ -3.12	▼ -4.6
	WTII原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/6	44.83 ▼ -2.15	▼ -1.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	44.73 ▼ -2.14	▼ -14.31
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,902 ▼ -2,268	▼ -17,201
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	102.72 ▲ 3.02	▲ 21.43
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/5	104.93 ▼ -2.08	▲ 15.14



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/28 ~ 9/3	1,047 ▼ -113 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,011 ▼ -95 ▲	▲ -	
	輸出	"	26 ▲ 6 ▼	▼ -	
	在庫	9/3	1,637 ▲ 11 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/30 ~ 9/5	43.3 ▼ -0.4 ▼	▼ -10.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/30 ~ 9/5	41.0 ▲ 0.0 ▼	▼ -10.2
		(TOCOM/中部)	9/5	40.5 ▼ -0.3 ▼	▼ -10.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/5	122.9 ▲ 0.7 ▼	▼ -12.2	

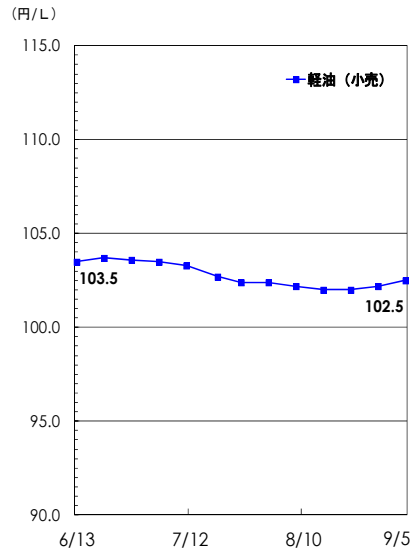
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

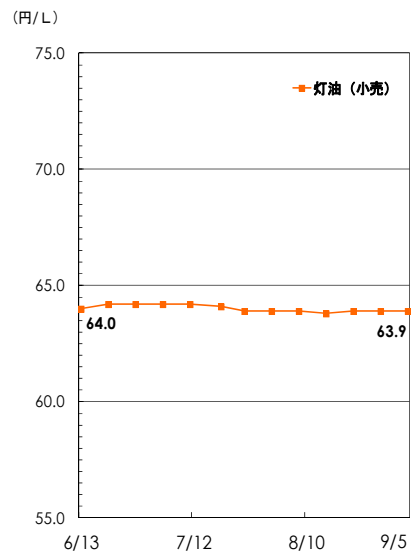
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/28 ~ 9/3	861 ▲ 78 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	569 ▼ -93 ▼	▼ -	
	輸出	"	323 ▲ 44 ▲	▲ -	
	在庫	9/3	1,728 ▼ -31 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/30 ~ 9/5	38.8 ▲ 0.3 ▼	▼ -7.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/30 ~ 9/5	38.7 ▼ -0.5 ▼	▼ -9.0
		(TOCOM/中部)	9/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/5	102.5 ▲ 0.3 ▼	▼ -11.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/28 ~ 9/3	218 ▼ -1 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	136 ▲ 4 ▼	▼ -	
	輸出	"	0 ▲ 0 ▲	▲ -	
	在庫	9/3	2,617 ▲ 82 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/30 ~ 9/5	37.4 ▲ 0.3 ▼	▼ -10.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/30 ~ 9/5	39.2 ▼ -1.6 ▼	▼ -10.8
		(TOCOM/中部)	9/5	38.5 ▼ -1.0 ▼	▼ -14.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/5	63.9 ▲ 0.0 ▼	▼ -17.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

7日のNYMEX市場のWTI原油は、5日のサウジ・ロシアの両エネルギー相の石油市場安定に向けた取り組み合意を材料に、供給過剰解決への期待感から、3営業日続伸した。この日のガソリン市場の上昇も原油の買いにつながったが、午後からのドル高・ユーロ安による原油の割高感が上昇を抑えた。取引の中心限月である10月限の終値は前日比0.67ドル高の45.50ドル、11月限の終値は前日比0.69ドル高の1バレル46.15ドルだった。

EIAによると9月5日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.4セント値下がりの1ガロン2.223ドル(61.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.2セント値下がりの2.407ドル(66.4円/ℓ)。ガソリン、軽油とも3週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、8月28日～9月3日に休止したトッパー能力は、6.9万バレル/日と前週に比べて3.1万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は372.9万klと、前週に比べ1.9万kl減少。前年に対しては3.7万klの減少。トッパー稼働率は87.8%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては1.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.7%減、ジェット/11.5%増、灯油/0.5%減、軽油/9.9%増、A重油/1.5%減、C重油/7.4%増。今週のC重油の輸入は0.1万kl(前週比7.4万kl減)。軽油の輸出は32.3万kl(前週比4.4万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油のみが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンのみが増加し、その他の油種で減少した。原油価格が値下がりに転じ、小売価格は前週に続き値上がりとなる中で、ガソリンの出荷は101.1万kl(対前週8.6%減)と2週振りに前週比で減少、3週連続で前年比で増加となり、10週連続で100万klを超えた。

ジェット8.4万kl(対前週37.7%減)、灯油13.6万kl(対前週3.0%増)、軽油56.9万kl(対前週14.0%減)、A重油17.0万kl(対前週15.4%減)、C重油22.2万kl(対前週8.9%減)。

(単位:千KL)

	今週 (8/28 ~ 9/3)	前週 (8/21 ~ 8/27)	前週比
ガソリン	1,011	1,106	▼ -95 (-9%)
ジェット燃料	84	135	▼ -51 (-38%)
灯油	136	132	▲ 4 (3%)
軽油	569	662	▼ -93 (-14%)
A重油	170	201	▼ -31 (-15%)
C重油	222	244	▼ -22 (-9%)
合計	2,192	2,480	▼ -288 (-12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月3日時点の在庫は軽油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは163.7万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては2.4万kl多い。

灯油は261.7万kl、前週差8.2万kl増。前年に対しては7.7万kl多い。

軽油は172.8万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては8.3万kl少ない。

A重油は77.1万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては2.7万kl多い。

C重油は203.4万kl、前週差3.2万kl減。前年に対しては22.5万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/3)	前週 (8/27)	前週比
ガソリン	1,637	1,626	▲ 11 (1%)
ジェット燃料	1,072	1,070	▲ 2 (0%)
灯油	2,617	2,535	▲ 82 (3%)
軽油	1,728	1,759	▼ -31 (-2%)
A重油	771	769	▲ 2 (0%)
C重油	2,034	2,066	▼ -32 (-2%)
合計	9,859	9,825	▲ 34 (0.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月30日から9月5日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円安だったが、原油価格の値下がりの影響のほうが大きく、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油38円台、灯油37円台でガソリンを除きやや高めに推移した。海上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油39~41円台、灯油35~36円台だった。先物価格はガソリン93~95円台、軽油38~39円台、灯油38~40円台で灯油の値下がりがやや顕著である。元売の卸価格はガソリンで据え置きから1.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは9月8日、10日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、据え置く旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストの値上がりによる卸価格の上昇により、製品スポット市況は、一般的に堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、10週連続で100万klを超え引き続き好調である。

9月第2週(9月8日~9月14日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月30日~9月5日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.3円、軽油は0.3円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円、灯油は0.4円、軽油は0.5円の値上がり、先物価格は、ガソリンが横ばい、灯油が1.6円、軽油が0.5円の値下がりだった。原油コスト値上がりの一服から、一部軟調となった。

9月第2週の大手元売の卸価格は、全社据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (8/30~9/5)	前週 (8/23~8/29)	前週比
スポット価格	レギュラー	43.3	43.7	▼ -0.4
	灯油	37.4	37.1	▲ 0.3
	軽油	38.8	38.5	▲ 0.3
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (8/30~9/5)	前週 (8/23~8/29)	前週比
先物価格	レギュラー	41.0	41.0	➡ 0.0
	灯油	39.2	40.8	▼ -1.6
	軽油	38.7	39.2	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/30~9/5実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.4	➡ 0.0	▼ -0.2
灯油	▲ 0.3	▼ -1.6	▼ -0.7
軽油	▲ 0.3	▼ -0.5	▼ -0.1
A重油	➡ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月5日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円値上がりの122.9円、軽油は前週比0.3円値上がりの102.5円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週振りの横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは37道府県、横ばいは4県、値下がり6都県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の117.5円(前週比0.3円安)、次が千葉県と茨城県の119.1円(前週比千葉0.7円高、茨城0.3円高)だった。最高値は長崎県の130.9円(同0.3円

安)だった。都道府県別で最も値上がりしたのは前週比2.8円高の宮城県(120.8円)、最も値下がりしたのは前週比0.9円安の東京都(124.3円)だった。

原油コストはやや値下がりしたが、2週連続で小売価格は値上がりした。原油価格の値下がりがやや円安を相殺した形で、原油コストはやや値下がりしたが、前々週の元売会社の卸価格値上げが引き続き進むと見られることから、次週の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)		
		今週 (9/5)	前週 (8/29)	前週比
小売価格	レギュラー	122.9	122.2	▲ 0.7
	灯油	63.9	63.9	➡ 0.0
	軽油	102.5	102.2	▲ 0.3
				直近高値
				08/8/4 185.1
				08/8/11 132.1
				08/8/4 167.4

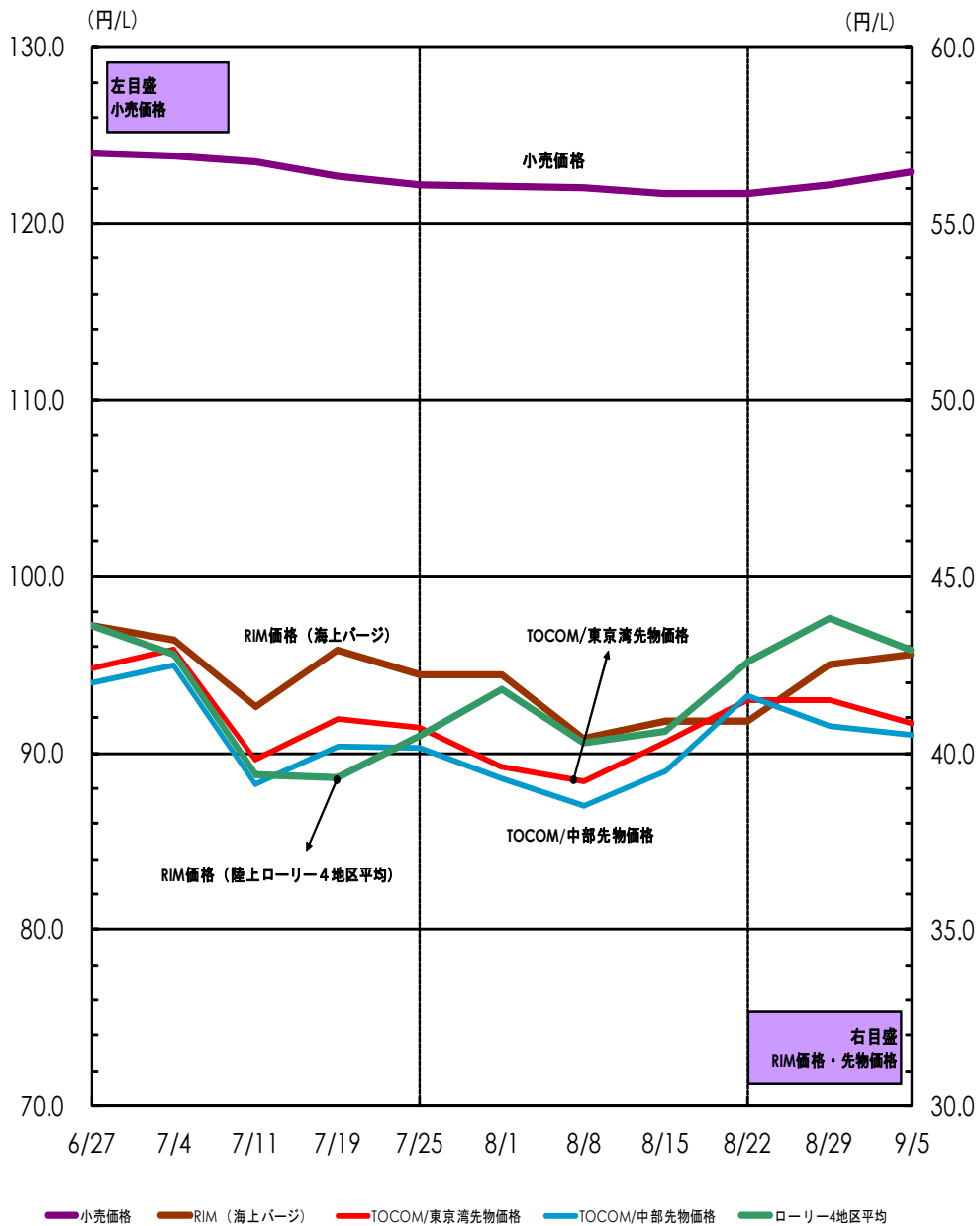
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/6/27 ~ 2016/9/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第23号)の公表は、9/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。